アルプス最後は飛騨の名峰・笠ケ岳 2898m

斉藤　整紀

●2017 年 10 月 6 日（金）～9 日（月・祝）
●メンバー　斉藤整紀（CL）・村山
●日程　6・7 日　竹橋（バス）22：30⇒新穂高温泉 6：20→笠新道登山口→わさび平小屋 7：40→小池新道入口 8：10→11：40 鏡平山荘（泊）
8 日　鏡平山荘 7：10→双六小屋分岐 8：10→秩父平→抜戸岳分岐→13：55 笠ケ岳山荘 14：10→笠ケ岳 14：30～50→15：10 笠ケ岳山荘（泊）
9 日　笠ケ岳山荘 6：25→笠新道分岐 7：25→杓子平→笠新道登山口 12：15→13：15 新穂高温泉（入浴・反省会））（バス）14：45⇒22：40 新宿駅

10月7日（土）新穂高温泉～鏡平山荘　雨

6 日夜、竹橋を出発した 3 列バスはリクライニングが効いて快適に進んだが、天気は予報通り雨。夜明け前、新穂高温泉のバス停に着き、周りの状況不案内の中、雨を凌げるスペースを確保し、雨具を着け、おにぎりを頬張った。

冴えない天気、鏡平経由の楽なコース設定が奏功。小雨が降ったり止んだりの中、上り坂の林道をゆったりと進む。笠新道登山口の勢いよく流れ落ちる水で手を洗い、少し進んだ先の「わさび平小屋」で一息ついた。多くの登山者が暗い顔。

「小池新道」入口で、林道歩きは終わり、山径が始まる。トラバース気味に歩き易い径を辿ると、渡渉地点に出る。「秩父沢」の標識があり、角材を 2 本並べた橋がある。平成 21 年 8 月 10 日、NHK「立山～ジャンダルム」の田部井氏が槍ヶ岳山荘に 2 日間足止めされた台風の初日、私は、雲ノ平山行からの下山途中、9 日宿泊の双六小屋で、「増水して、秩父沢の橋が渡れなければ帰れなくなる」と注意され、駆け下りた記憶がある。

更に、安全で歩き易い道が続くものの、雨脚は強まり、随所に「濡れ」を感じ始める。「イタドリヶ原」「シシウドヶ原」などをこなし、着実に標高を稼ぐと、やがて道がこなれて、小屋が近いことが分かる。高台に上がるとすぐ鏡平の有名な槍・穂高連峰が写る鏡池があり、撮影者向けテラスがある。無論、今日は山が見えない為、誰もいない。何はともあれ、濡れた物から解放されたい！昼前ながら、鏡平山荘の受付を済ませ、居場所が確保できると、濡れ物の処理を急ぐ。雨具以外は乾燥室で乾かすが、午後に入り、濡れそぼった者が続々やってくると、乾燥能力が落ちる為、乾いたら早めに回収して防衛。北アルプスらしいこぎれいな小屋で、別館もあり、布団 1 枚ずつで、まずまず。明日の晴れを信じて、早めに床につく。

10月8日（日）鏡平～笠ケ岳～笠ケ岳山荘　晴

明けの明星が槍ヶ岳の真上に輝き、予報に違わぬ好天気が期待出来る。朝食前後は写真撮りに、霜で滑る木道を渡って、多くが鏡池テラス周辺に並ぶ。5 時 50 分、日出と水面に注目！槍の南側に太陽が顔を覗かせると、あっという間に大きな輝きになる。

池の水面には少し遅れて、時間差の日の出が！こちらは空の背景より鮮やかである。

ゆっくりと写真撮影に時間をとったため出発は 7 時過ぎとなった。逆光ながら槍・穂高を眺めながら整備された径を登るのは、モチベーションが上がる。弓折岳に立つと、360 度の展望が広がる。以後、稜線は見飽きない絶景が続く。

双六の台形は大きく、黒五も近い。薬師と鷲羽、水晶は存在感がある。槍の後ろに大天井が控え、

燕の白い花崗岩が美しい。焼岳の南方の乗鞍が特有の岩峰をもたげ、青白い御嶽山は高々と煙を上げている。中央アルプスや南アルプスは距離を置いて控える。

抜戸岳に向かう途中、ようやく姿を現した笠ケ岳は大きく、まだ距離が大分ある。抜戸岳から南西に方向を変えて、２回大きなアップダウンをこなすと本峰に至る。どっしりとした編み笠状のスケールの大きな山である。抜戸岳の巻道からは山頂直下に山荘が控え、その下にテント場が望まれる。小屋に到着後、ひとまず宿泊手続きをして、小屋前にザックをデポして山頂に向かう。１０分程であっさり到着。午後に入り、ガスや雲が出てきたが、我々が山頂にいる間は、穂高はまずまずの背景となった。

2800mの肩に建つ小屋は、聞きしに勝る混雑ぶりで、小さな布団１枚にきっちり２名が当てられ、辛い夜となった。

１０月９日（月）山荘～笠新道～新穂高温泉　晴

翌朝も良く晴れて、槍・穂高連峰の他、富士山が南アルプスの東に現出。朝食後、身支度を整えて、北穂近く、大キレットの長谷川ピーク付近に上がる日出を撮ってから出発。復路のバスの前に入浴を考えると、少し忙しい。

まず、来た道を戻り、抜戸岳の山頂直下まで進む。そこから、いよいよ笠新道が始まる。笠新道は、予想通り厳しい。随所に槍・穂高連峰の景色が楽しめるメリットの裏腹に、一部ブナ林や針葉樹林の日除けもあるが、背の低いダケカンバや低灌木や笹原、草原が多く、南東面は暑い！

乗鞍岳と御嶽山

もし上りならば、杓子平の平地を挟んで、５時間半余りの長い急登を登り終えた抜戸岳の先に、遥か遠くに笠ケ岳山荘と頂上が聳える、という具合でタフなコースである。例えば、北アルプス３大急登の一つ、合戦尾根は涼しい樹林帯を登って、少しトラバースすれば４時程で小屋が現れる、という合理的なコースと比べると遥かに厳しい。また、抜戸岳から杓子平までのガレ石の斜面やその先の石畳は歩き難い。

それらに耐え、笠新道登山口まで下りて、ふんだんな水に出会うと火照った体が喜ぶ。ここの到着は、当初の予定通り１２時過ぎであった。更にバスセンター手前の新穂高ホテルに着いたのが１３時過ぎで、入浴と軽食、ビールで打ち上げた。

かくして、アルプスの中で最後の笠ケ岳 93 座目を無事に遊ぶことが出来たのは嬉しい。

帰りのバスは、３連休最終日で、予想されていたとはいえ、松本で高速に上がるまでと、高速の諏訪湖過ぎからの渋滞が激しく、新宿着が夜 11 時近くで、家に着いて日付が変わる厳しいものとなり、ほろ苦さが残った。（了）